

引用文献一覧

【日本語文献】

- アイザック, E. 1985〔1970〕『栽培植物と家畜の起源』大明堂（山本正三・田林 明・桜井明久共訳）《Isaac, E. *Geography of domestication.*》
- アイヌ文化保存対策協議会編 1969『アイヌ民族誌』上 第一法規
- 青野友哉 1999「碧玉製管玉と琥珀製玉類からみた続縄文文化の特質」『北海道考古学』35 69～82頁
- 青柳文吉 1993「オホーツク文化のクマ意匠遺物」『北海道北方民族博物館研究紀要』2 59～70頁
- 厚岸町下田ノ沢遺跡群調査会 1972『厚岸町下田ノ沢遺跡』
- 厚沢部町教育委員会 1979『稲倉石岩陰遺跡』
- 網走市教育委員会 2001『モヨロ貝塚試掘調査概報』
- 姉崎智子 1999「弥生時代の関東地方におけるブタの存在」『動物考古学』12 39～53頁
- 阿部 永 1994「イノシシ」『日本の哺乳類』東海大学出版会 146、147頁
2000『日本産哺乳類頭骨図説』北海道大学図書刊行会
- 阿部余四男 1933「樺太北貝塚の犬に就いて」『日本犬』6-3 2～5頁
- 天野哲也 1975「オホーツク文化における動物儀礼の問題」『北大史学』15 62～87頁
1977「極東民族史におけるオホーツク文化の位置(上)」『考古学研究』23-4 110～121頁
1998「オホーツク文化の形成と鈴谷式の関係」『北方の考古学』367～381頁
2002「クマ送りとクマ贈り(ギフト)」『日本古代中世の政治と宗教』吉川弘文館 202～216頁
2003a『クマ祭りの起源』雄山閣
2003b「オホーツク文化とはなにか」『北海道の古代2』北海道新聞社 110～133頁
2004「サハリンにおけるパクローフカ文化の問題」『サハリンから北東日本海域における古代・中世交流史の考古学的研究』159～167頁
- 天野哲也・小野裕子 2002「オホーツク文化の形成過程」『サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅』115～118頁
- アンガス・フィリップス 2002「愛情物語 犬と人の絆」『National geographic (日本版)』（伊藤和子訳）54～73頁
- 石川 朗 2004「北海道東部縄文晩期後半から続縄文初頭における動物の取り扱いについて」『アイヌ文化の成立』北海道出版企画センター 3～29頁
- 石川政治 1954「自然遺物について」『北海道南部に於ける遺跡及び遺物の考古学的研究』（研究代表者：千代肇）17～19頁
- 石黒直隆 2000「海峡を越えて人と共に動いた家畜たち」『日本人と日本文化』12 8頁

- 石黒直隆・松井 章・本郷一美 2001「ミトコンドリア DNA 分析からみた先史時代の島嶼部における家畜の移入」『日本人と日本文化』15 19 頁
- 石黒直隆・山崎京美 2001「伊豆諸島および北海道出土縄文イノシシについての DNA 分析結果」(平成 11～12 年度科学研究費補助金(基盤研究 C(2)成果報告書) (研究代表者:山崎京美) 54、55 頁
- 石田 肇・西本豊弘・松田 功 1994「ウトロ遺跡神社山地点第三次(1990 年度)発掘調査報告」『知床博物館研究報告』15 1～12 頁
- 石附喜三男 1976「鈴谷式土器の南下と江別式土器」『北海道考古学』12 29～35 頁
- 泉 靖一 1960「樺太の見える岡の発掘」『世界の旅・日本の旅』7 69～79 頁
- 泉 靖一・曾野寿彦 1967『オンコロマナイ』東京大学出版会
- 伊東信雄 1942「樺太先史時代土器編年試論」『喜田博士追悼記念 國史論集』 19～44 頁
- 乾 哲也 2001「北海道のへら状骨角器」『考古学ジャーナル』469 12～17 頁
- 乾 芳宏 1995「恵山文化の動物意匠遺物について」『みちのく発掘』菅原文也先生還暦記念論集刊行会
- 犬飼哲夫 1943「北海道・樺太・千島に於ける鳥獣の分布」『北海道・樺太・千島列島編』山雅房 79～97 頁
- 1960「民族学的に見た北海道の野猪」『北方文化研究報告』15 1～6 頁
- 井上紘一 1981「トナカイとヒト(1)」『北方文化研究』14 109～140 頁
- 猪熊 壽 2001『イヌの動物学』東京大学出版会
- 今西錦司 1974〔1948〕「遊牧論そのほか」『今西錦司全集第二巻』所収 講談社
- 今村啓爾 1983「陥穴(おとし穴)」『縄文文化の研究』2 148～160 頁
- ウィルタ協会資料館運営委員会編 2002『北方少数民族資料館 ジャッカ・ドフニ展示作品集』
- 右代啓視 1991「オホーツク文化の年代学的諸問題」『北海道開拓記念館研究年報』19 23～49 頁
- 右代啓視・小林幸雄・小林孝二・Shubina, O. A. 1998「サハリン州ペロカーメンナヤチャシンの考古学的調査」『「北の文化交流史研究事業」中間報告』北海道開拓記念館 23～42 頁
- 臼杵 勲 2004『鉄器時代の東北アジア』同成社
- 臼杵 勲・熊木俊朗 2002「アムール河下流アエロポルト遺跡竪穴住居址の出土資料」『サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅』 77～84 頁
- 宇田川洋 1982「住居」『縄文文化の研究』6 21～34 頁
- 1989「動物意匠遺物とアイヌの動物信仰」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』8 1～42 頁
- 2002「オホーツク「クマ祀り」の世界」『北の異界』東京大学総合研究博物館 106～120 頁
- 2003『居住形態と集落構造から見たオホーツク文化の考古学的研究』

- 宇田川洋・澤 四郎 1984「釧路緑ヶ岡遺跡の墓壇」『河野広道博士没後二十年記念論文集』北海道出版企画センター 253～276 頁
- 内田吟風訳注 1971「匈奴伝」『騎馬民族史』1 平凡社 1～151 頁
- 内山幸子 2000「オホーツク文化におけるイヌの埋葬について」『考古学雑誌』85-3 83～97 頁
- 2001「推定体長に基づいたマダラ漁の復元的研究」『海と考古学』4 33～44 頁
- 2002a「サハリン中部におけるオホーツク文化後葉の動物利用について」『筑波大学先史学・考古学研究』13 17～33 頁
- 2002b「オホーツク文化の動物利用について - ブロムイスロヴォエⅡ遺跡（東多来加貝塚）を中心に -」『サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅』124～130 頁
- 2003a「イヌ・イノシシ類利用からみる北海道とサハリンの文化的位置」『古代文化』55-10 46～56 頁
- 2003b「北海道のイノシシ歯牙製品について」『海と考古学』6 23～36 頁
- 2004「目梨泊遺跡の動物利用について」『目梨泊遺跡』71～84 頁
- 内山幸子・辻村春香 2001「ウニ類の出土量の算出方法について」『海と考古学』3 1～8 頁
- 内山幸子・松村博文 1997「イヌの頭蓋骨の多変量解析」『動物考古学』8 1～20 頁
- 江口祐輔 2001「第 6 章 イノシシの行動と能力を知る」『イノシシと人間』古今書院（高橋春成編）171～199 頁
- エスプマルク, Y. 1987「シカ・トナカイ類」『動物大百科』10 平凡社 94～99 頁
- エバンス, H. E., ドラウンタ, A. 1981〔1971〕『犬の解剖の手引』学窓社（鹿野 胖・醍醐正之監修・訳者代表）《Evans, H. E. and deLahunta, A. *Miller's guide to the dissection of the dog.*》
- 江別市教育委員会 1981『元江別遺跡群』
- えりも町教育委員会 2000『油駒遺跡』
- 大井晴男 1972「礼文島元地遺跡のオホーツク式土器について」『北方文化研究』6 1～36 頁
- 1973「附 オホーツク式土器について」『オンコロマナイ貝塚』東京大学出版会 253～273 頁
- 1978「オホーツク文化の社会組織」『北方文化研究』12 93～138 頁
- 1981「Ⅲ 香深井 A 遺跡の考古学的位置」『香深井遺跡』下 東京大学出版会 530～566 頁
- 1984「オホーツク文化の船」『北海道の研究』2 清文堂出版 67～104 頁
- 1988「オホーツク文化の荷負者の生業と集団」『考古学叢考』中巻 吉川弘文館 457～485 頁
- 1997「「熊祭りの起源」をめぐって」『考古学雑誌』83-1 82～111 頁
- 大井晴男編 1982『オホーツク文化の諸問題』学生社

- 大井晴男・大泰司紀之・西本豊弘 1980「礼文島香深井 A 遺跡出土ヒグマの年齢・死亡時期・性別の査定について」『北方文化研究』13 43～74 頁
- 大井晴男・大泰司紀之・和田一雄・西本豊弘 1981「礼文島香深井 A 遺跡出土オットセイの年齢・死亡時期の査定について」『北方文化研究』14 199～240 頁
- 大井晴男・天野哲也・西本豊弘 1986「オホーツク文化における社会組織・その変遷」『環太平洋北部地域における狩猟獣の捕獲・配分・儀礼』(昭和 60 年度科学研究費補助金(一般 A) 研究成果報告書)(研究代表者:大井晴男) 1～13 頁
- 大川 清 1998『北海二島』窯業史博物館
- 大嶋和雄 1977「海峡形成史 VI」『地質ニュース』280-12 36～44 頁
- 大島直行 1989「北海道出土の貝輪について」『考古学ジャーナル』311 19～24 頁
- 1999「本州系文化の消長」『シンポジウム 海峡と北の考古学』日本考古学協会釧路大会実行委員会 22、23 頁
- 2002「続縄文文化と弥生文化」『月刊 文化財』470 44～49 頁
- 大島直行・角田隆志 1995「北海道入江貝塚出土の猪牙製装身具」『古代文化』47-5 42～47 頁
- 太田克明 1980「犬の家畜化並びに日本在来犬の起源と歴史(総説)」『在来家畜研究会報告』9 53～94 頁
- 大泰司紀之 1983「北方狩猟民の生活カレンダー」『考古学ジャーナル』223 15～19 頁
- 1998『哺乳類の生物学② 形態』東京大学出版会
- 大塚和義 1968「オホーツク文化の偶像・動物意匠遺物」『物質文化』11 21～32 頁
- 大塚和義・加藤晋平・桜井清彦・山口 敏 1975「パネルディスカッション 海獣狩猟民・オホーツク文化の源流」『季刊 どるめん』6 47～90 頁
- 大西秀之 1996「トビニタイ土器分布圏における‘擦文式土器’の製作者」『古代文化』48-5 48～62 頁
- 大場利夫 1955「モヨロ貝塚出土の骨角器」『北方文化研究報告』10 173～249 頁
- 1956「モヨロ貝塚出土のオホーツク式土器」『北方文化研究報告』11 187～256 頁
- 大場利夫・大井晴男編 1973『オンコロマナイ貝塚』東京大学出版会
- 1976『香深井遺跡』上 東京大学出版会
- 1981『香深井遺跡』下 東京大学出版会
- 大場利夫・新岡武彦・大井晴男・菊池俊彦 1972『枝幸町川尻チャシ調査概報』
- 大場利夫・渡辺兼庸 1966「北海道爾志郡三ツ谷貝塚」『考古学雑誌』51-4 13～27 頁
- 大林太良 1985「熊祭りの歴史民族学的研究」『国立民族学博物館研究報告』10-2 427～449 頁
- 大林太良・パプロート, H-J. R. 1964「樺太オロッコの熊祭」『民族学研究』29-3 218～236 頁
- 大貫静夫 1998『東北アジアの考古学』同成社

- 2003 「『吉林通史』と大陸の飼グマ祭り」『第4回 北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会 40～43 頁
- 大沼忠春 1968 「北海道中標津町出土の猪牙製装飾品」『若木考古』88 1 頁
- 岡 正雄・馬場 脩 1938 「北千島占守島及び樺太多来加地方に於ける考古学的調査予報」『民族学研究』4-3 117～180 頁
- 岡田亘一 1942 「馴鹿」『樺太の動物』樺太庁 30～34 頁
- 奥山鍾吉 1943 「樺太石器時代の遺物にあらわれた鳥獣意匠に就いて」『樺太庁博物館報告』5-1 113～127 頁
- 小沢智生 2000 「縄文・弥生時代にブタは飼われていたか」『季刊考古学』73 17～22 頁
- 小竹道信（語り） 2003 「鱒釣り街で川崎船に乗る」『利尻島の水産だより』利尻島水産振興連絡協議会 2 頁
- 小野裕子 1998 「道北オホーツク文化の「地域集団」の動態に関する考察」『物質文化』65 17～33 頁
- 小野裕子・天野哲也 2002 「「鈴谷文化」の形成過程」『サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅』107～114 頁
- 小野正文 1984 「縄文時代における猪飼養問題」『甲府盆地』雄山閣 47～76 頁
- 加藤晋平 1975 「開宮海峡を越えて - 北アジアと日本列島の文化交流 - 」『えとのす』2 40～52 頁
- 1979 「北方農耕覚え書 7」『季刊どるめん』21 101～111 頁
- 1980 「北方農耕覚え書 9」『季刊どるめん』24・25 213～222 頁
- 加藤嘉太郎・山内昭二 1995a 『家畜比較解剖図説』上 養賢堂
- 1995b 『家畜比較解剖図説』下 養賢堂
- 門崎允昭 1996 「ヒグマによる人身事故と作物被害」『日本動物大百科』1 152 頁
- 門崎允昭・犬飼哲夫 2000 『ヒグマ』北海道新聞社
- 金子之史 1998 『哺乳類の生物学① 分類』東京大学出版会
- 金子浩昌 1967 「洞穴遺跡出土の動物遺存体」『日本の洞穴遺跡』平凡社 424～451 頁
- 1968 「東釧路貝塚から出土した動物遺骸」『釧路考古学研究会連絡紙』1-2 3、4 頁
- 1974 「付篇 I. オンネモト遺跡出土の動物遺存体および未製骨角器」『オンネモト遺跡』東京教育大学文学部 117～161 頁
- 1978 「縄文時代遺跡出土の動物遺存体 (2)」『考古学ノート』7 1～18 頁
- 1980 「池上遺跡出土の動物遺存体」『池上・四ツ池遺跡』9～32 頁
- 1986 「北海道における縄文時代貝塚の形成と動物相」『北海道考古学』22 133～151 頁
- 1992 「日本考古学における動物遺体研究史」『国立歴史民俗博物館研究報告』42 47～281 頁
- 1996 「V. 自然科学的調査」『釧路市幣舞遺跡調査報告書』III 173～190 頁

- 金子浩昌・牛沢百合子 1980「池上遺跡出土の動物遺存体」『池上・四ツ池遺跡 自然遺物篇』
9～32 頁
- 金子浩昌・忍沢成視 1986『骨角器の研究』縄文篇Ⅰ 慶友社
- 上奈穂美 2001「オホーツク文化の動物儀礼」『物質文化』70 39～56 頁
- 樺太庁博物館 1937『樺太庁博物館要覧』
- 川内谷修 1985「北海道から出土するイノシシ遺存体について」『文京台考古』特別号 48～53
頁
- 河内良弘訳注 1971「烏桓・鮮卑伝」『騎馬民族史』1 平凡社 153～214 頁
- 神田信夫訳注 1971「勿吉・靺鞨伝」『騎馬民族史』1 平凡社 341～363 頁
- 菊池徹夫 1979「靺鞨とオホーツク文化」『東洋史・考古学論集』朋友書店 431～454 頁
- 菊池俊彦 1971「樺太のオホーツク文化について」『北方文化研究』5 31～51 頁
- 1976「オホーツク文化に見られる靺鞨・女真系遺物」『北方文化研究』10 31～117
頁
- 1992「銀の道」『平井尚志先生古希記念考古学論攷』Ⅱ 35～56 頁
- 1993「環オホーツク海の古代文化」『海・潟・日本人—日本海文明交流圏』講談社 124
～159 頁
- 1995a『北東アジア古代文化の研究』北海道大学図書刊行会
- 1995b「オホーツク北西岸の初期鉄器時代の遺跡」『北海道考古学の諸問題』（『北海
道考古学』31）北海道考古学会 215～228 頁
- 2004『環オホーツク海古代文化の研究』北海道大学図書刊行会
- 北構保男 1940「北海道稚内町附近の先史時代遺跡調査豫報」『上代文化』17 32～49 頁
- 2000「オホーツク人の舟艇資料」『北海道考古学』36 105～110 頁
- 北構保男・須見 洋 1953「北海道根室半島 トーサムボロ・オホーツク式遺跡調査報告」『上
代文化』24 31～48 頁
- 北見市 1986『中ノ島遺跡Ⅱ』
- 木村信六 1937「樺太の石器時代」『ミネルヴァ』2・1 32～39 頁
- 1984〔1934〕「樺太本斗町南浜通二丁目貝塚調査報告」『千島・樺太の文化誌』北海
道出版企画センター 36～51 頁
- 1984〔1939〕「樺太の動物意匠遺物」『千島・樺太の文化誌』北海道出版企画センタ
ー 64～76 頁
- 木村英明 1982「骨角器」『縄文文化の研究』6 143～165 頁
- 1989「南サハリンの遺跡と調査」『AMUS ニュース』3・4 1～20 頁
- 木村盛武 1995『春告獣 エゾヒグマその素顔』共同文化社
- 木山克彦 2003「北海道北部における縄文前半期の集石土坑について」『海と考古学』6 1
～21 頁
- 2004「サハリン南部ハザールスコエ遺跡について」『海と考古学』7 35～44 頁

- 木山克彦・シェフコムード, I. Y.・コシーツィナ, E. S. 2003「バリシャヤ・プフタ 1 遺跡出土の土器が提起するもの」『古代文化』55・11 20～32 頁
- 清野謙次 1969「第 2 篇 北見国網走郡網走町モヨロ貝塚」『日本貝塚の研究』岩波書店 496～517 頁
- クラットン・ブロック, J. 1989 [1981]『図説 動物文化史事典』(増井久代訳)《Clutton-Brock, J. *Domesticated animals from early times.*》
- 熊木俊朗 2000「近年のオホーツク文化研究展望」『祭祀考古』16・17 合併号 37～42 頁
2004「サハリンの様相」『サハリンから北東日本海域における古代・中世交流史の考古学的研究』73～80 頁
- クレイノヴィチ, E. A. 1993 [1973]『サハリン・アムール民族誌』法政大学出版局(榎本 哲訳)《Крейнович, E. A. *Загадочные обитатели Сахалина и Амура.*》
- 黒澤弥悦 2001「イノシシとブタ」『イノシシと人間』古今書院(高橋春成編) 2～44 頁
- 考古学研究室 2002「久保常晴先生収集樺太考古資料」『考古学論究』8 11～47 頁
- 甲野 勇 1938「北方調査団考古学班小報」『考古学雑誌』28・12 63～65 頁
- 河野本道 1973「縄文晩期頃の鉄片の発見」『考古学ジャーナル』77 20、21 頁
- 奥水達司・野村 崇 1990「サハリンの遺跡出土黒曜石のルーツ」『考古学ジャーナル』315 28～31 頁
- 児玉作左衛門 1950『モヨロ貝塚』
- 児玉作左衛門・大場利夫 1952「礼文島船泊砂丘遺跡の発掘に就て」『北方文化研究報告』7 167～270 頁
- 後藤仁敏・大森司紀之 1986『歯の比較解剖学』医歯薬出版株式会社
- 小宮 孟 1995「福島県三貫地貝塚出土の縄文犬骨の再記録」『千葉県立中央博物館研究報告』4・1 27～43 頁
- ゴルブノフ, C. B. 1995「近年発見のサハリンの遺跡と遺物」『北方博物館交流』8 9～20 頁
(財)北海道埋蔵文化財センター 1980「美沢 4 遺跡」『フレベツ遺跡群』17～122 頁
1981a『美沢川流域の遺跡群IV』
1981b『社台 1 遺跡・虎杖浜 4 遺跡・千歳 4 遺跡・富岸遺跡』
1983a『旭町 1 遺跡』
1983b『ママチ遺跡』
1986a『美沢川流域の遺跡群IX』
1986b『木古内町 建川 1・新道 4 遺跡』
1987『ママチ遺跡III』
1989『小樽市 忍路土場遺跡・忍路 5 遺跡』
1991『余市町 フゴッペ貝塚』
1992『美沢川流域の遺跡群XV』
1997a『千歳市 美々 4 遺跡』

- 1997b 『美沢川流域の遺跡群 XIX』
- 1998a 『千歳市 キウス 4 遺跡(2)』
- 1999a 『千歳市 キウス 4 遺跡(3)A・H・K・I 地区』
- 1999b 『千歳市 キウス 4 遺跡(4)A2 地区』
- 1999c 『滝里遺跡群 IX』
- 2000a 『千歳市 キウス 4 遺跡(6)』
- 2000b 『対雁 2 遺跡(1)』
- 2001a 『千歳市 ウサクマイ N 遺跡』
- 2001b 『千歳市 キウス 4 遺跡(7)Q 地区』
- 2001c 『千歳市 キウス 4 遺跡(8)』
- 2001d 『白老町 虎杖浜 2 遺跡』
- 2002a 『白老町 虎杖浜 2 遺跡(2)』
- 2002b 『恵庭市 西島松 5 遺跡』
- 2002c 『千歳市 チプニー1 遺跡・チプニー2 遺跡』
- 2002d 『穂香竪穴群』
- 2002e 『野田生 2 遺跡』
- 2002f 『奥尻町 青苗砂丘遺跡』
- 2003a 『千歳市 オサツ 2 遺跡(2)』
- 2003b 『恵庭市 西島松 5 遺跡(2)』
- 2003c 『千歳市 ユカンボシ C15 遺跡(6)』
- 2003d 『奥尻町 青苗砂丘遺跡 2』
- 2003e 『千歳市 キウス 4 遺跡(10)』
- 斎藤 弘 1938 「北千島占守島竪穴並に樺太東多来加貝塚出土家犬骨に関する報告」『民族学研究』4・4 85～106 頁
- 1940 「大山史前学研究所所蔵日本新石器時代家犬遺骨に関する報告、並に内地史前家犬の分類」『史前学雑誌』12・4・5・6 151～210 頁
- 斎藤弘吉 1963 『犬科動物骨格計測法』私家版
- 斎藤弘吉 1964 『日本の犬と狼』雪華社
- 佐々木史郎 1991 「アムール川下流域とサハリンにおける文化類型と文化領域」『国立民族学博物館研究報告』16・2 261～309 頁
- 札幌医科大学解剖学第二講座 1987 『高砂貝塚』
- 札幌市教育委員会 1987 『K135 4 丁目地点 5 丁目地点』
- 1996 『H37 遺跡』
- 佐藤孝雄 1996 「トカレフ文化のイヌについて」『動物考古学』7 37～52 頁
- 1999 「クマ送りの起源をめぐって」『環オホーツク』7 15～32 頁
- 2004 「オホーツク文化の動物儀礼」『アイヌ文化の成立』北海道出版企画センター

245～262 頁

- 佐藤智雄 1998「北海道の動植物を意匠する製品」『東北民俗学研究』6 121～153 頁
- 佐藤智雄・五十嵐貴久 1996「能登川コレクションの骨角器について」『私立函館博物館研究紀要』6 1～32 頁
- 佐藤宏之 1989「陥し穴猟と縄文時代の狩猟社会」『考古学と民族誌』六興出版 37～59 頁
- 佐藤宏之・クズミン, Y. V.・グラスコック, M. D. 2002「サハリン島出土の先史時代黒曜石製石器の原産地分析と黒曜石の流通」『北海道考古学』38 1～13 頁
- 斎野裕彦 1999『動物デザイン考古学』仙台市富沢遺跡保存館
- 沢 四郎 1969「釧路川流域の先史時代」『釧路川』 216～271 頁
- 更科源蔵・更科 光 1976「イヌ」『コタン生物記Ⅱ』法政大学出版局 332～337 頁
- ジェイムズ, R. 1997〔1994〕『動物の考古学』學藝書林(本郷一美訳)《James, R. *Animal bones.*》
- シェフコムード, I.Ya. 2003〔2002〕「バリシャヤ・ブフタ 1 集落遺跡とアムール下流域・サハリンの文化に関する幾つかの問題」『海と考古学』5 73～85 頁(木山克彦訳)
《Шевкомуд, И. Я. Поселение болияша бувта-1 и некоторы проблемы культур нижнего Амура и Сахалина. *Записки гродековского музея. С.37-52.*》
- シートン, E. T. 1998〔1925-1928〕『シートン動物誌 7 トナカイの塩の道』紀伊国屋書店(今泉吉晴監訳)《Seaton, E.T. *Lives of game animals. III.*》
- 茂原信生 1985『古代家犬の系統と移動に関する研究』
1986『東京大学総合研究資料館所蔵 長谷部言人博士収集 犬科動物資料カタログ』
1991「日本犬に見られる時代的形態変化」『国立歴史民俗博物館研究報告』29 89～108 頁
- 茂原信生・小野寺覚 1984「田柄貝塚出土の犬骨について」『人類学雑誌』92-3 187～210 頁
1986「田柄貝塚出土犬骨の形態的特徴について」『田柄貝塚Ⅰ』宮城県文化財保護協会 589～651、655～672 頁
- 茂原信生・馬場悠男・芹沢雅夫 1988「薄磯貝塚出土の家犬およびオオカミ」『薄磯貝塚』福島県いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団 558～571 頁
- 茂原信生・平口哲夫・櫻井秀雄 2004「三引遺跡出土のイヌならびに他の中・小型哺乳類」『田鶴浜町三引遺跡』Ⅲ(下層編) 305～332 頁
- 茂原信生・松井 章 1995「原の辻遺跡出土の動物遺存体」『原の辻遺跡』長崎県教育委員会 189～203 頁
- 斜里町教育委員会 1980『オクシベツ川遺跡』
1990『ピラガ丘遺跡・秋山地点発掘調査報告書』
- 斜里町立知床博物館内知床博物館協力会 1988「エゾヒグマ」『知床の哺乳類』10 10～19 頁
- 正田陽一 1987「豚」『人間がつくった動物たち』東書選書 101～127 頁
1997「人と豚との交流史」『ヒトと動物の関係学会誌』2 8～12 頁
- 尻岸内町教育委員会 1984『恵山貝塚』

- 知床博物館協力会 1983『尾河台地遺跡発掘調査報告書』(斜里町文化財調査報告Ⅱ)
 1988『谷田遺跡発掘調査報告書』(斜里町文化財調査報告Ⅲ)
 1995『オシヤマツ川遺跡発掘調査報告書』(斜里町文化財調査報告Ⅷ)
- 杉浦重信 2001「北辺の縄文文化」『北海道の古代 1』北海道新聞社 202～227 頁
- 杉山壽榮男 1932「熊の模様ある土器」『人類学雑誌』47-11 432～437 頁
- 関 正・直良信夫 1973「室蘭市本輪西遺跡調査概報」『考古学ジャーナル』84 11～13 頁
- 関口 明 2003〔1987〕「渡島蝦夷と毛皮交易」『古代東北の蝦夷と北海道』吉川弘文館 138
 ～156 頁
- 瀬棚町教育委員会 1983『瀬棚南川』
- ゾイナー, F. E. 1983〔1963〕『家畜の歴史』法政大学出版局(国分直一・木村伸義訳)《Zeuner,
 F. E. *A history of domesticated animals.*》
- 高倉浩樹 1997「角の民族誌」『季刊民族学』80 国立民族学博物館 74～89 頁
- 高橋 健 2004「骨角器からみた続縄文文化における外来的要素について」『第 5 回 北アジア
 調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会 64、65 頁
- 高橋 理 2001「北海道におけるイノシシ」『縄文時代島嶼部イノシシに関する基礎的研究』(平
 成 11～12 年度科学研究費補助金(基盤研究 C(2))成果報告書) (研究代表者:
 山崎京美) 26～33 頁
- 高橋多蔵 1940a「樺太犬に就いて」『樺太時報』37 67～80 頁
 1940b「樺太犬に就いて(2)」『樺太時報』38 36～45 頁
 1940c「樺太犬に就いて(3)」『樺太時報』39 100～122 頁
 1940d「樺太犬に就いて(完)」『樺太時報』40 88～114 頁
- 高島孝宗 1998「オホーツク文化における大陸系遺物の分布について」『考古学ジャーナル』436
 11～15 頁
 2003「オホーツク文化の信仰と儀礼」『北海道の古代 2』北海道新聞社 162～181
 頁
- 竹石健二・澤田大多郎 2002「本学所蔵の樺太土器」『史叢』66 1～26 頁 日本大学文理学部
 内日本大学史学会
- 田中一栄 1996「ブタの起源」『新編畜産大事典』養賢堂 917～918 頁
- 田中智夫 2001『ブタの動物学』東京大学出版会
- 田名部雄一 1993「犬の起源と家畜化」『動物たちの地球』127 196～199 頁 朝日新聞社
- 谷 泰 1995「考古学的意味での家畜化とは何であったか—人・羊・山羊間のインターラク
 ションの過程として—」『人文学報』76 京都大学人文科学研究所 229～274
 頁
 1997『神・人・家畜—牧畜文化と聖書世界—』平凡社
- 種市幸生 2000「ウサクマイ N 遺跡の性格について」『千歳市 ウサクマイ N 遺跡』 291～302
 頁

- 2003「オホーツク文化のマリタイム・アダプテーション」『想い北に馳せて』 85
 ～96頁
- 種屯内遺跡調査団 1998「種屯内遺跡第2次調査概要(1996年)」『利尻研究』17 67～96頁
 1999「種屯内遺跡第3次調査概要(1997年)」『利尻研究』18 107～141頁
 2000「種屯内遺跡第4次調査概要(1998年)」『利尻研究』19 101～135頁
 2001「種屯内遺跡第5次調査概要(1999年)」『利尻研究』20 113～151頁
 2002「利尻町種屯内遺跡発掘調査報告 総括編 1 事実関係」『利尻研究』21
 131～150頁
 2004「利尻島種屯内遺跡の考古学的調査」『歴史人類』32 筑波大学歴史・
 人類学系 55～115頁
- 千歳市教育委員会 1986『梅川3遺跡における考古学的調査』
 1996『末広遺跡における考古学的調査IV』
- 千代 肇 1965「北海道積丹半島第一次調査報告」『先史学研究』5 1～15頁
- 千代 肇・近藤祐弘・川又 洋 1954『北海道茅部郡森町尾白内貝塚について』
- 知里真志保 1973「樺太アイヌの生活」『知里真志保著作集3』平凡社 145～209頁
- ヂェレヴァンコ, E. H. 1975「アムール州トロイツコエ村そばの靺鞨の墓地」『シベリア極東の
 考古学① 極東篇』 385～394頁
- 坪井正五郎 1889「四足獣の浮き模様有る貝塚土器及び粗造なる内耳の土鍋」『東京人類学会雑
 誌』37 226～231頁
 1908「カラフト石器時代遺跡発見の鳥骨管」『東京人類学会雑誌』23-263 157～
 164頁
- デイヴィッド, R. 2001〔1991〕『クマとアメリカ・インディアンの暮らし』どうぶつ社(小林
 正佳訳)《David, R. *Giving voice to bear.*》
- テスタール, A. 1995〔1982〕『新不平等起源論』法政大学出版局(山内昶訳)《Testart, A. *Les
 chasseurs-cueilleurs ou l'origine des inégalités.*》
- デリュージン, V. A. 1994「ハバロフスク地方における1990-93年の考古学的調査」『北方ユ
 ーラシア学会会報』4 1～2頁
- デリュージン, V. A., コッシーナ, S. F. 1999「チリヤー第3遺跡出土の線刻による騎馬像を有
 する土製品について」『Project AMUR.』(加藤博文・山田昌久・シェフコム
 ド編) 84～87頁
- デリュージン, V. A., デネコ, A. B. 2003「環オホーツク海文化圏の「種族」についての諸問題」
 『海と考古学』5 1～18頁
- 土肥 孝 1981「動物の土偶と狩猟祭祀」『アニマ』96 19～21頁
 1985「儀礼と動物」『季刊考古学』11 51～57頁
- 樋泉岳二・姉崎智子・江田真毅・鶴澤和宏 2003「第V章 羽根尾貝塚の動物遺体群」『羽根尾
 貝塚』玉川文化財研究所 298～352頁

- 東京教育大学文学部 1974 『オンネモト遺跡』
- 東京大学大学院人文社会系研究科 2001 『トコロチャシ跡遺跡』
- 東京大学文学部 1963 『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡』 上
 1964 『オホーツク海沿岸・知床半島の遺跡』 下
 1972 『常呂』
 1985 『柴浦第一遺跡』
- 徳田御稔 1969 『生物地理学』 築地書館
- トゥゴルコフ, B. A. 1981 (1969) 『トナカイに乗った狩人たち』 刀水書房 (加藤九祚解説・斎藤農二訳) 《Туголуков, В. А. Следопыты верхом на оленях.》
- 苫小牧市教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財センター 1984a 『苫小牧東部工業地帯埋蔵文化財発掘調査概要報告書VI』
 1984b 『タプコプ』
 1987 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』
 1995 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群V』
 1997 『柏原5遺跡』
 2002 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群VIII』
- 苫小牧市埋蔵文化財調査センター 1990 『入江遺跡』
 1998 『美沢東遺跡群』
- 鳥澤 雅 1991 「ホッケ」『北のさかなたち』 北日本海洋センター 164～169 頁
- 直良信夫 1930 「石狩国旭川市東旭川発見熊の頭部石製品」『史前学雑誌』 2・2 65 頁
 1937a 「日本史前時代に於ける豚の問題」『人類学雑誌』 52・8 20～30 頁
 1937b 「三宅島コハマ濱彌生式遺跡発掘の豚の臼歯」『人類学雑誌』 53・2 28～30 頁
 1938 「北方文化圏の獣骨」『民族学研究』 4・4 1～24 頁
 1939a 「北海道室蘭本輪西貝塚発掘の獣類」『人類学雑誌』 54・10 25～32 頁
 1939b 「オホーツク海沿岸の史前家犬について」『犬の研究』 1 月号 98～101, 103 頁
 1941 『古代の漁撈』 葦牙書房
 1957 「オホーツク海沿岸遺跡発掘の家犬下顎骨」『古代』 25・26 1～16 頁
 1972 「付録II 北海道稚内市声間貝塚発掘の猫の頭蓋骨」『古代遺跡発掘の脊椎動物遺体』 校倉書房 51～53
 1973 「日本および日本周辺地域の古代家犬骨」『古代遺跡発掘の家畜遺体』 日本中央競馬会弘済会 126～246 頁
- 長崎県教育委員会 1995 『原の辻遺跡』
- 仲谷 淳 1996 「イノシシ」『日本動物大百科 2』 平凡社 118～121 頁
- 名取武光 1972 (1936) 「北日本に於ける動物意匠遺物と其の分布相」『アイヌと考古学 1』 105～140 頁

- 1974〔1940〕「噴火湾アイヌの捕鯨」『アイヌと考古学 2』 95～118 頁
- 名取武光・犬飼哲夫 1972a〔1939〕「イオマンテ（アイヌの熊祭）の文化的意義とその形式（一）」
『アイヌと考古学 1』北海道出版企画センター 246～279 頁
- 1972b〔1940〕「イオマンテ（アイヌの熊祭）の文化的意義とその形式（二）」
『アイヌと考古学 1』北海道出版企画センター 280～330 頁
- 名取武光・峰山 巖 1954『北黄金遺跡発掘報告』
- 1958「入江貝塚」『北方文化研究報告』13 115～173 頁
- 新岡武彦 1977〔1932〕「樺太留多加河畔の遺跡」『樺太・北海道の古文化 1』 23～26 頁
- 1977〔1966〕「南樺太遠洲湖畔二号沢遺跡」『樺太・北海道の古文化 1』 124～132 頁
- 新岡武彦・宇田川洋 1990『サハリン南部の遺跡』北海道出版企画センター
- 1992『サハリン南部の考古資料』北海道出版企画センター
- 新美倫子 1991「愛知県伊川津遺跡出土ニホンイノシシの年齢及び死亡時期査定について」『国立歴史民俗学博物館研究報告』29 123～148 頁
- 西中川駿 1999『古代遺跡出土骨からみたわが国のイノシシとブタの起源ならびに飼育に関する研究』（文部省科学研究成果報告書）
- 西本豊弘 1978「オホーツク文化の生業について」『物質文化』31 1～12 頁
- 1981「イヌ」『香深井遺跡』下 東京大学出版会 415～425 頁
- 1983「イヌ」『縄文文化の研究 2』雄山閣 161～170 頁
- 1984a「オホーツク文化の生業」『北海道の研究 2』清文堂出版 105～126 頁
- 1984b「北海道の縄文・続縄文文化の狩猟と漁撈」『国立歴史民俗博物館研究報告』4 1～15 頁
- 1985「北海道縄文時代イノシシの問題」『古文化探叢』Ⅱ 137～152 頁
- 1989「弥生時代のブター大分市下郡桑苗遺跡ほか」『季刊考古学』28 91～92 頁
- 1991「弥生時代のブタについて」『国立歴史民俗博物館研究報告』36 175～194 頁
- 1993「弥生時代のブタの形質について」『国立歴史民俗博物館研究報告』50 49～63 頁
- 1994「朝日遺跡出土のイヌと動物遺存体のまとめ」『朝日遺跡Ⅴ』愛知県埋蔵文化財センター 329～338 頁
- 1995「動物遺体」『伊川津遺跡』渥美町教育委員会 76～81 頁
- 2002「礼文島浜中 2 遺跡出土の動物遺体概要」『筑波大学先史学・考古学研究』13 109～111 頁
- 西本豊弘編 2000『浜中 2 遺跡発掘調査報告』（国立歴史民俗博物館研究報告 85）
- 2003『根室市弁天島遺跡発掘調査報告』（国立歴史民俗博物館研究報告 107）
- 西本豊弘・内山幸子 2000「e イヌ」『浜中 2 遺跡発掘調査報告』（国立歴史民俗博物館 85） 240～253 頁

- 西本豊弘・新美倫子 1992「コタン温泉遺跡の動物遺体」『コタン温泉遺跡』北海道八雲町教育委員会 433～468頁
- 西本豊弘・宮 宏明 1989「北見市中ノ島遺跡の動物遺体について」『北網圏北見文化センター研究報告』（考古学関連論文集 I） 4～10頁
- 西谷榮治 2001「亦稚貝塚出土「トナカイ角」に彫り込まれた鯨」『広報 りしり』369 8頁
日本大学文理学史学研究室 1966『樺太の遺物』
- 根室市教育委員会 1966「弁天島遺跡」『北海道根室の先史遺跡』 3～51頁
- 野澤 謙・西田隆雄 1981『家畜と人間』出光科学叢書
- 野村 崇 1990「サハリン中部ネフスコイエ湖岸遺跡群出土の考古資料」『北海道開拓記念館研究年報』18 89～100頁
1992「沿海州・サハリン系文化の南下と北海道」『季刊考古学』38 39～42頁
- 野村 崇編 1984『長沼町 12区 B遺跡の発掘調査』長沼町教育委員会
函館市教育委員会 1997『湯川貝塚』
1999『函館市 石倉貝塚』
- 長谷部言人 1936「石器時代の家犬について」『日本犬』5・3 1～5頁
1950「日本石器時代の大型犬とその起源」『人類学雑誌』61・2 5～8頁
1952「犬骨」『吉胡貝塚』文化庁 146～150頁
- 畠山三郎太 1967「北海道天都山貝塚の始原犬」『北海道考古』3 21～30頁
1973「北海道の犬についての覚書」『北海道史研究』創刊号 41～63頁
- 畑 宏明 2004「続縄文時代前半に見られるクマ形の彫像について」『アイヌ文化の成立』31～40頁
- 服部 健 1997「樺太ギリヤークの漁撈語彙」『北の民俗誌』三一書房 249～256頁
- 馬場 脩 1940「樺太の考古学的概観」『人類学・先史学講座』17 雄山閣 1～119頁
浜頓別町教育委員会 1975『浜頓別町の文化遺跡』
- 春成秀爾 1995「熊祭りの起源」『国立歴史民俗博物館研究報告』60 57～106頁
- 人見必大 1981『本朝食鑑』5（島田勇雄訳注）平凡社
- 平井尚志 1965「サハリン考古学と樺太庁博物館」『MOUSEION』11 24～36頁
- 平岩米吉 1989『犬の生態』築地書館
- 平川善祥・山田悟郎・小林幸雄 1998「南サハリン西海岸採集の考古遺物」『「北の文化交流史研究事業」中間報告』 119～146頁
- 平嶋義宏 2002『生物学名概論』東京大学出版会
- 廣瀬國康 1940『となかひ』樺太文化振興会
- ピウスツキ, B. 1998 [1909]「サハリン・アイヌの熊祭」『人文研究』96 特別号 11～41頁
（和田 完訳）《Pilsudski, B. Das barenfest der ajnen auf Sachalin. *Globus*. 96・3,4》
- フィリップ, E. L. S. 1986 [1970]『農耕の起源と人類の歴史』有斐閣（戸沢充則監訳・河合信

- 和訳)《Philip, E. L. S. *Food production and its consequences.*》
 フォーグル, B. 1996〔1995〕『犬種大図鑑』ペットライフ社(福山英也訳)《Fogle, B. *The encyclopedia of the dog.*》
- 平取町遺跡調査会 1990『額平川 2 遺跡』
- 福田正宏 2003「北海道における亀ヶ岡式土器と在来系土器の系統」『海と考古学』5 18～52 頁
- 福田正宏・前田 潮 1998「縄文時代後・晩期における礼文島」『筑波大学 先史学・考古学研究』9 35～56 頁
- 藤尾慎一郎・今村峯雄 2004「炭素 14 年代とリザーバー効果」『考古学研究』50-4 3～8 頁
- 藤本 強 1986「オホーツク海をめぐる交流」『海をこえての交流』 233～264 頁
 1989「総論」『続縄文文化概論』『縄文文化の研究 6』雄山閣 3～7、10～20 頁
- 富良野市教育委員会 1996『無頭川遺跡Ⅲ』
- 北地文化研究会 1968「根室市弁天島西貝塚調査概報 - 1968 年度 - 」『考古学雑誌』54-2 49～64 頁
 1971『浜別海遺跡』
 1979「根室市弁天島西貝塚竪穴調査報告」『北海道考古学』15 35～56 頁
 2004『根室市トーサムポロ遺跡 R-1 地点の発掘調査』
- 北海道虻田町教育委員会 1994『入江貝塚出土の遺物』
- 北海道枝幸郡枝幸町教育委員会 1985『ホロバツ砂丘遺跡』
 1988『目梨泊遺跡』
 1998『目梨泊遺跡』
 2004『目梨泊遺跡』
- 北海道恵庭市教育委員会 2004a『柏木川 7 遺跡』
 2004b『カリンバ 3 遺跡(3)』
- 北海道江別市教育委員会 1975『高砂遺跡』
 1979『江別太遺跡』
 1984『旧豊平河畔 七丁目沢 7』
 1991『高砂遺跡(8)』
 2000『高砂遺跡(17)』
- 北海道帯広市教育委員会 1990『帯広・八千代 A 遺跡』
- 北海道開拓記念館 1982『ニツ岩』
 1996「大成町貝取潤 2 洞窟遺跡発掘調査」『北海道開拓記念館調査報告』35 1～18 頁
- 北海道亀田郡戸井町教育委員会 1993『戸井貝塚Ⅲ』
- 北海道亀田郡七飯町教育委員会 2000『桜町遺跡発掘調査報告書』
- 北海道教育委員会 1979『美沢川流域の遺跡群Ⅲ』

- 北海道釧路市教育委員会 1990『釧路市幣舞遺跡調査報告書』
- 北海道釧路市埋蔵文化財調査センター 1994『釧路市幣舞遺跡調査報告書Ⅱ』
1996『釧路市幣舞遺跡調査報告書Ⅲ』
1999『釧路市幣舞遺跡調査報告書Ⅳ』
- 北海道標津町教育委員会 1990『伊茶仁チシネ第3 竪穴群遺跡』
- 北海道伊達市教育委員会 1984『南有珠7 遺跡』
1986『有珠善光寺2 遺跡』
1989『有珠善光寺2 遺跡Ⅱ』
1994a『伊達市 有珠ポンマ遺跡』
1994b『有珠10 遺跡の概要』
2003『図録 有珠モシリ遺跡』
- 北海道千歳市・北海道千歳市教育委員会 1967「付録 美々貝塚」『千歳遺跡』 131～166 頁
- 北海道千歳市教育委員会 1976『美々貝塚』
- 北海道常呂郡端野町教育委員会 1972『縄文時代のたんの』
- 北海道常呂町 1982『岐阜第二遺跡』
- 北海道常呂町教育委員会 1995『栄浦第二・第一遺跡』
1996『常呂川河口遺跡(1)』
2000『常呂川河口遺跡(2)』
2002『常呂川河口遺跡(3)』
- 北海道泊村教育委員会 1989『茶津洞穴遺跡発掘調査報告書』
- 北海道文化財研究所 1990『茶津貝塚』
1992『堀株1・2 遺跡』
- 北海道松前町教育委員会 1988『寺町貝塚』
- 北海道室蘭市・室蘭市教育委員会・市立室蘭図書館 1962『室蘭遺跡』
- 北海道目梨郡羅臼町教育委員会 1981『植別川遺跡』
1984『松法川北岸遺跡』
1991『オタフク岩遺跡』
- 北海道八雲町教育委員会 1992『コタン温泉遺跡』
- 北海道余市町教育委員会 2000a『大川遺跡』
2000b『大川遺跡における考古学的調査Ⅱ』
2000c『入舟遺跡』
- 北海道利尻町教育委員会 1978『亦稚貝塚』
- 北海道利尻富士町教育委員会 1995『遺跡発掘調査報告書 利尻富士町役場』
- 北海道立北方民族博物館 1995『湧別町川西遺跡』
- 北海道立埋蔵文化財センター 2002『奥尻町青苗砂丘遺跡』
- 北海道礼文町教育委員会 1992『浜中2 遺跡の発掘調査』

- 1999『香深井5遺跡発掘調査報告書(2)』
 2000『礼文町船泊遺跡発掘調査報告書』
 2001a『オションナイ2遺跡』
 2001b『香深井6遺跡発掘調査報告書』
- 本間元樹 1995「続縄文文化の鉄器」『北海道考古学の諸問題』（『北海道考古学』31） 187～204頁
- 前田 潮 1974「オホーツク文化とそれ以降の回転式銚頭の型式とその変遷」『史学研究』96 1～35頁
 1976「オホーツク文化の確立過程について」『史学研究』106 1～21頁
 1999「オホーツク文化黎明期の宗谷海峡」『海と考古学』1 1～8頁
 2000「恵山文化の銚頭について」『海と考古学』2 15～22頁
 2002a『オホーツクの考古学』同成社
 2002b「鹿角製帯飾」『筑波大学 先史学・考古学研究』13 巻頭図版
 2003「オンコロマナイ遺跡について」『海と考古学』6 59～68頁
- 前田 潮・内山幸子 2001「礼文島浜中2遺跡出土の牙製婦人像」『考古学雑誌』86-3 85～97頁
- 前田 潮・西谷榮治 1997「利尻町種屯内遺跡発掘調査報告」『利尻研究』16 29～60頁
- 前田 潮・フェドルチュク, V. D.・内山幸子（発表者）・諸留佐織 2001「サハリン中部における調査報告」『第2回 北アジア調査研究報告会 発表要旨』北アジア調査研究報告会実行委員会 34～35頁
- 前田 潮・山浦 清 2002「礼文島浜中2遺跡第2～4次発掘調査報告」『筑波大学先史学・考古学研究』13 35～87頁
- 増田隆一・天野哲也・小野裕子 2002「古代DNA分析による礼文島香深井A遺跡出土ヒグマ遺存体の起源」『動物考古学』19 1～14頁
- 榊本 哲 1978「オホーツク文化におけるブタ飼育の問題について」『北海道考古学』14 83～92頁
 1986「オホーツク文化のイヌの装飾肢骨について」『考古学研究』33-2 67～108頁
- 松井 章・石黒直隆・本郷一美・南川雅男 2001「琉球（沖縄）先史文化におけるブタの移入系譜」『新石器時代の貝塚と動物遺存体』 39～48頁
- 松井 健 1989『セミ・ドメスティケーション』海鳴社
 1997「ドメスティケーションの「自然」観」『自然の文化人類学』東京大学出版会 63～89頁
- 松下 亘 1965「北海道の土器にみられる突瘤文について」『物質文化』5 14～28頁
 1968「北海道とその隣接地域の動物意匠遺物について」『北海道考古学』4 64～83頁
- 松下 亘・中村 齋・野村 崇・中田幹雄・赤松守雄・山田悟郎・平川善祥・門崎允昭 1975

- 「枝幸町ウスタイベ遺跡予備調査報告」『北海道開拓記念館調査報告』9 35
～78 頁
- 松園万亀雄 1962「ソヴェト民族学における「経済・文化型」および「歴史・民族誌的領域」
の概念」『社会人類学』3・3 73～82 頁
- 松本彦七郎 1918「北海道の古今の猪」『動物学雑誌』359 33 頁
- 三上次男 1966『古代東北アジア史研究』吉川弘文館
- 溝口 稔 1965「室蘭における先史遺跡の調査について」『北海道私学教育研究協会研究紀要』
7 1～24 頁
- 三橋公平編 1983『南有珠 6 遺跡』札幌医科大学解剖学第二講座
- 南満州鉄道株式会社編纂 1929『露領極東の魚類及毛皮資源』下 大阪毎日新聞社・東京日日
新聞社
- 峰山 巖 1972「第 1 編 先史時代」『新稿伊達町史』上巻（渡辺茂編）三一書房 11～122 頁
- 箕島栄紀 2000『古代国家と北方社会』吉川弘文館
- 宮崎泰史 1982「亀井遺跡のイヌについて」『亀井遺跡』大阪文化財センター 205～230 頁
1984「亀井遺跡のイヌについてⅡ」『亀井遺跡Ⅱ』大阪文化財センター 337～354
頁
- 室蘭市・室蘭市教育委員会・市立室蘭図書館 1962『室蘭遺跡』
- 女鹿潤哉 2000「「クマ祭儀」の行方」『北海道考古学』36 47～64 頁
- 森 忠男 1930「本邦産雑種犬ニ於ケル歯牙形態及ビ其ノ二代齒列發生ノ時期ニ就テ」『日本歯
科学会誌』23 227～256 頁
- 森 為三 1929「朝鮮石器時代に飼養せし犬の品種に就て」『人類学雑誌』44・2 43～52 頁
- 森本有親 1930「北貝塚の遺跡遺物」『博物館教育』創刊号 54～68 頁
- モンテリウス, O. 1999[1932]『考古学研究法』雄山閣（濱田耕作訳）《Montelius, O. *Die Älteren
Kulturperioden im Orient und in Europa.*》
- 矢ヶ崎孝雄 2001「猪垣にみるイノシシとの攻防」『イノシシと人間』古今書院（高橋春成編）
122～170 頁
- 八雲町教育委員会 1995『栄浜 1 遺跡』
- 八幡一郎 1943「骨製針入」『古代文化』14・8 1～9 頁
- 山浦 清 1982「オホーツク文化の骨斧・骨篋・骨鋏」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』
1 151～166 頁
1984「オホーツク文化の動物彫刻」『考古学ジャーナル』235 21～24 頁
1993「「環オホーツク海文化」という視点」『北海道考古学』29 9～19 頁
1995「サハリン・ウスチ=アインスカヤ遺跡採集の考古資料」『ムゼイオン』41 1
～4 頁
1999「漁撈具から見た弥生文化と恵山文化」『物質文化』66 35～44 頁
- 山田悟郎・椿坂恭代 1995「大陸から伝播してきた栽培植物」『北の歴史・文化交流研究事業』

- 研究報告』北海道開拓記念館 107～134 頁
- 山田悟郎・平川善祥・小林幸雄・右代啓視・佐藤隆広 1995「オホーツク文化の遺跡から出土した大陸系遺物」『「北の歴史・文化交流研究事業」研究報告』北海道開拓記念館 65～79 頁
- 山谷文人・内山幸子 2004「利尻島沼浦海水浴場遺跡発掘調査報告」『海と考古学』7 15～34 頁
- 吉田英雄 1991「ネズミザメ」『北のさかなたち』北日本海洋センター 4、5 頁
- レーヴィン, M. G. 1960「北シベリアおよび極東におけるソヴェートの民族誌研究」『民族学研究』24-1・2 1～14 頁 (香山陽坪訳) 《Lewin, M. G. *Sowjetische ethnographische forschungen in nordsibirien und im osten.*》
- ロックウェル, D. 2001『クマとアメリカ・インディアンの暮らし』どうぶつ社 (小林正佳訳) 《Rockwell, D. *Giving voice to bear.*》
- ロット・ファルク, E. 1980 [1953]『シベリアの狩猟儀礼』弘文堂 (田中克彦・糟谷啓介・林 正寛訳) 《Lot-falk, E. *Les rites de chasse.*》
- ローレンツ, K. 1966 [1953]『人イヌにあう』至誠堂 (小原秀雄訳) 《Lorenz, K. *So kam der mensch auf den hund.*》
- 1987 [1983]『ソロモンの指輪』早川書房 (日高敏隆訳) 《Lorenz, K. *The king Solomon's ring.*》
- 涌坂周一 1984「木の利用 - 松法川北岸遺跡出土の木製品 - 」『考古学ジャーナル』235 15～20 頁
- 2003「銀製品の発見」『北海道の古代 2』北海道新聞社 98、99 頁
- ワシレフスキー, A. A. 1992「サハリン島の新石器文化」『北海道考古学』28 (木村英明訳) 115～136 頁
- 渡辺兼庸 1965「北海道乙部町三ツ谷遺跡」『日本考古学年報』18 73 頁
- 渡部琢磨・石黒直隆・森井泰子・中野益男・松井 章・本郷一美・西本豊弘 2003「弥生時代の遺跡から出土したイノシシの遺伝的解析」『動物考古学』20 1～13 頁
- 渡辺俊一 1998「縄文時代の焼人骨・火葬墓について」『北方の考古学』103～114 頁
- 渡辺 仁 1964「アイヌの熊祭の社会的機能並びにその発展に関する生態的要因」『民族学研究』29-3 206～217 頁
- 和田文治郎 1942「留多加遺跡 (貝塚) の概報」『樺太廳博物館報告』5-1 147～153 頁
- 稚内市教育委員会 1964『稚内・宗谷の遺跡』

【英語文献】

Antropova, V. V.

1956a The Koryaks. *The people of Siberia*. The university of Chicago press. pp.851-875.

1956b The Aleuts. *The people of Siberia*. The university of Chicago press. pp.884-888.

- Antropova, V. V. and Kuznetsova, V. G.
 1956 The Chukchi. *The people of Siberia*. The university of Chicago press. pp.799-835.
- Bökönyi, S.
 1969 Archaeological problems and methods of recognizing animal domestication. Ucko, P.J. and Dimbleby, G.W. (eds.), *The domestication and exploitation of plants and animals*. London, Gerald Duckworth & CO., pp.219-229.
 1974 *History of domestic mammals in central and eastern Europe*. Akadémiai kiadó, Budapest.
- Brothwell, D.R.
 1975 Salvaging the term domestication for certain types of man-animal relationship : the possible value of an eight point scoring system. *Journal of Archaeological Science*. 2, pp.397-400.
- Bull, G. and Payne, S.
 1982 Tooth eruption and epiphyseal fusion in pigs and wild boar. Wilson, B., Grigson, C., Payne, C. (eds.) *Ageing and sexing animal bones from archaeological sites*. BAR British series. 109. pp.55-71.
- Clutton-Brock, J.
 1989 Introduction to domestication. Clutton-Brock, J. (ed.) *The walking larder*. pp.7-9.
- Clutton-Brock, J. (ed.)
 1989 *The walking larder*. London, Unwinhyman.
- Davis, S.J.M.
 1987 *The Archaeology of animals*. London, Yale University Press.
- Fitzhugh, W.
 1975 A comparative approach to northern maritime adaptations. *Prehistoric maritime adaptations of the circumpolar zone*. pp.339-386.
- Hallowell, A. I.
 1926 Bear ceremonialism in the northern hemisphere. *American anthropologist*. 28-1. pp.1-175.
- Hayashi, Y. Nishida, T. Mochizuki, K., Seta, S.
 1977 Sex and age determination of the Japanese wild boar (*Sus scrofa leucomystax*) by the lower teeth. *Japanese journal of veterinary science*. 39. pp.165-174.
- Ingold, T.
 1976 *The Skolt Lapps today*. Cambridge university press.
- Ivanov, S. V., Levin, M.G. and Smolyak, A.V.
 1956 The Nivkhi. *The people of Siberia*. The university of Chicago press. pp.767-787.
- Jarman, M. R. and Wilkinson, P. F.
 1972 Criteria of animal domestication. Higgs, E. S. (ed.) *Paper in economic prehistory*. pp.83-96.
- Kerstin, E.
 1969 Dogs as emergency food. *Food and emergency food in the circumpolar zone*. pp.135-136.

- Leonard, J. A., Wayne, R. K., Wheeler, J., Valadez, R., Guillén, S., Vilà, C.
 2002 Ancient DNA evidence for Old world origin of New world dogs. *Science*. vol.298. American association for the advancement of science. pp.1613-1616.
- Lydia, B.
 1973 The Nivkh (Gilyak) of Sakhalin and the Lower Amur. *Arctic Anthropology*. 10-1 pp.1-110.
- Matschke, G.
 1967 Aging of European wild hogs by dentition. *Journal of wildlife management*. 31-1. pp.109-113.
- Meadow, R.H.
 1989 Osteological evidence for the process of animal domestication. J.Clutton-Brock, (ed.), *The Walking Larder*. Hyman, pp.80-90.
- Menovshchikov, G. A.
 1956 The Eskimos. *The people of Siberia*. The university of Chicago press. pp.836-850.
- Murdock, G. P.
 1969 The current status of the world's hunting and gathering people. Lee, B.R. and DeVore, I. (eds.), *Man the hunter*. Aldine publishing company. Chicago. pp.13-20.
- Olsen, S. J.
 1981 Archaeologically, what constitutes an early domestic animal? Schiffer, M. B. (ed.) *Advances in archaeological method and theory*. vol.4 Academic press. pp.175-197.
- Ohyl, H.
 1975 The Okhotsk culture, a maritime culture of the southern Okhotsk sea region. Fitzhugh, W.(ed.), *Prehistoric maritime adaptation of circumpolar zone*. Mouton publishers. pp.123-158.
- Payne, R.
 1971 Animals as capital : comparisons among northern nomadic herders and hunters. *Anthropological quarterly*. vol. 44. no.3 pp.157-172.
- Peter, S., Ya-ping, Z., Jing, L., Joakim, L., Tomas, L.
 2002 Genetic evidence for an East Asian origin of domestic dogs. *Science*. vol.298. American association for the advancement of science. pp.1610-1613.
- Schmid, E.
 1972 *Atlas of animal bones*. Elsevier publishing company. Amsterdam.
- Tchernov, E. and Horwitz, L. K.
 1991 Body size diminution under domestication: unconscious selection in primeval domesticates. *Journal of anthropological archaeology*. 10. pp.54-75.
- Ucko, P.J. and Dimbleby, G.W. (eds.)
 1969 *The domestication and exploitation of plants and animals*. London, Gerald Duckworth & CO
- Vila, C., Maldonado, J. E., and Wayne, R. K.
 1999 Phylogenetic relationships, evolution, and genetic diversity of the domestic dog. *The journal*

- of heredity*. 90. American genetic association. pp.71-77.
- Watanobe, T., Ishiguro, N., Okumura, N., Nakano, M., Matsui, A., Hongo, H., Ushiro, H.
 2001 Ancient Mitochondrial DNA Reveals the Origins of *Sus scrofa* from Rebun Island, Japan.
Journal of molecular evolution. 52, pp.281-289.
- Widdowson, E. M. and MacCance, R. A.
 1975 A review: new thoughts on growth. *Pediatric Research*. 9. pp.154-156.
- Yesner, D. R.
 1980 Maritime hunter-gatherers : ecology and prehistory. *Current anthropology*. 21-3. pp. 727-749.
- 【ロシア語文献】
- Алексеева, Э. В., Горбунова, С. В.
 1993 Фауна стоянки охотской культуры Ивановка, южный Сахалин. *Новый материалы по археологии Дальнего востока России и смежных территорий (Доклады у сессии Научно-проблемного совета археологов Дальнего востока)*. С.80-81.
- Василевский, А. А.
 1996 Заметки о до- и протоистории острова сахалин. *Краеведческий бюллетень*, 1. С.54-79.
 1999 Сусуя и Эпи Дземонё. *Сахалинにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅*. С.85-100.
- Василевский, А. А., Жущиховская, И. С.
 1988 Предрефлянка – новый памятник сахалинского неолита. *Новейшие исследования памятников первобытной эпохи на юге дальнего восток СССР*. С.26-36.
- Васильевский, Р. С.
 1971 *Происхождение и древняя культура коряков*.
- Васильевский, Р. С., Голубев, В. А.
 1976 *Древние поселения на Сахалине*.
- Горубнов, С. В.
 1996 *Каталог*. 2
- Деревянко, А. П.
 1973 *Ранний железный век Приамурья*.
 2000 *Польцевская культура на Амуре*.
- Деревянко, Е. И.
 1975 *Мохэские памятники среднего Амура*.
 1977 *Троицкий могильник*.
- Деревянко, А. П., Богданов, Е. С., Нестеров, С. П.
 1999 *Могильник Найфельд*.
- Ермолова, Н. М.

- 1963 Остатки млекопитающих из раковинных куч полуострова песчаного. *Материалы и исследования по археологии СССР*. С.344-348.
- Козырева, Р. В.
1967 *Древний Сахалин*.
- Крейнович, Е. А.
1930 Собаководство гиляков и его отражение в религиозной идеологии. *Этнография*. 4. С.29-54.
- Лебединцев, А. И.
1990 *Древние приморские культуры северо-западного приохотья*.
- Медведев, В. Е.
1986 *Приамурье*. Наука.
- Самарин, И. А.
1996 *История острова Монерон*.
- Сафронов, С.Н., Федорчук, В.Д., Чепелев, Д.В.
2001 Рыбы и рыбный промысел на побережье залива Терпения в эпоху охотской культуры (по материалам поселения Промысловое-2). *Ученые записки Сахалинского государственного университета*. II, С.55-63.
- Сахалинский областной художественный музей
2000 *Декоративно - прикладное искусство народов дальнего востока в собрании Сахалинского областного художественного музея*.
- Федорчук, В.Д.
1995 Археологические исследования Поронайского историко-этнографического музея в 1993-1994гг. *ВЕСТНИК Сахалинского Музея*. II, Сахалинский областной краеведческий музей, С.29-53.
1998 Керамика поселений с раковинными кучами северного побережья залива терпения. *ВЕСТНИК Сахалинского Музея*. VI, Сахалинский областной краеведческий музей, С.143-162.
2002 Археологические комплексы северного побережья залива Терпения с круглодонной керамикой, орнаментированной жемчужинами. *サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅*. С.44~47.
- Шеломихин, О. А.
2001 О функциональном назначении лошадиных фаланг из средневековых памятников приамурья новые данные. *Традиционная культура востока Азии*, 3. С.138-143.
- Шоссоннэ, В.
1996 *Перекрестки континентов*.
- Шубин, В. О.

1979 Раскопки многослойного поселения Озерск-1. *Археология Амуро-Сахалинского региона*. С.5-29.

Шубина, О. А.

1999 Этапы заселения древним человеком укрепленного поселения Белокаменная-часи на южном Сахалине *ВЕСТНИК Сахалинского Музея*. VI, Сахалинский областной краеведческий музей, С.227-252.

2002 Археологические раскопки древнего поселения Охотское-3 на южном Сахалине в 2000-2001 гг. *サハリンにおけるオホーツク文化の形成と変容・消滅*. С.50~53.

Шубин, В. О., Шубина, О. А.

1977 Стоянки первобытного человека на южном сахалине. *Исследования по археологии сахалинской области*. С.62-107.

【中国語文献】

烏 恩

1996 [1990] 「試論漢匈奴興鮮卑遺跡区分」『中国考古集成』9 549~556 頁

黒龍江省文物考古研究所

1989 「黒龍江羅北県団結墓葬発掘」『考古』8 719~726 頁

浙江省文物考古研究所

2003 『河姆渡』文物出版社